

吉田 伊調姉妹が回復治療

女子55kg級  
金メダル  
視界良好

眼力

金メダル獲得のためには視力だつて鍛えます。北京五輪レスリング日本代表は25日、都内での壮行会に出席。女子55kg級吉田沙保里(25|総合警備保障)らが金メダル獲得を誓った。吉田、同48kg級伊調千春(26|同)同63kg級伊調馨(24|同)の3人は、今年2月から視力回復治療を導入。吉田は右0.1、左0.08の視力が約5カ月で右1.5、左0.9まで回復。心技体を充実させ、目も輝かせて、頂点をつかむ。

特殊レンズで

壮行会に集まった1000人を超えて、少年少女レスラーに、吉田は胸を張って言った。「北京五輪で金メ

ダルを取るために女子は8度の合宿を行ってきた。五輪で女子4人全員が金メダルを取れるように頑張ってきた」。今年1月に連勝が119で止まったが、自信は揺らいでいない。心技体に加え、「視力」まで進化させていた。

もともと吉田の視力は0.1ほど、それが唯一ともいえる弱点だった。ふだんはコンタクトレンズを着用していた。06年12月のアジア大会では、2回戦で左目のコンタクトレンズが外れ、準決勝までの2試合を左目がほとんど見えない状態で戦った。「目が悪いのもコンタクトが外れたのも私のせい」と話していた。

◆オサート 三井院長が、米国で確立された視力回復法のオルソケラトロジーを発展させた治療法。オルソケラトロジーと同様に、就寝時に特殊な形状にデザインされたコンタクトレンズを着け角膜自体を矯正する。ただ、当初は近視の欧米人の角膜の形状に合わせたコンタクトレンズしかなかったため、同院長が独自に日本人の角膜の形状に対応でき、強度の近視、乱視、老眼まで幅広くカバーできるものを開発した。

医師も北京へ

今年2月から都内の三井メディカルクリニックで、伊調姉妹とともにオサートと呼ばれる視力回復法を始めた。就寝時に特殊なコンタクトレンズを装着し、角膜の形状を矯正する治療法で、わずか5カ月で成果が

正する。表れた。吉田は右1.5、左0.9まで回復。伊調千からは1カ月余りで両目0.03まで回復したという。

三井石根院長は「吉田選手と伊調選手は既に裸眼で競技できる状態。千春選手はまだコンタクトがいるが、回復している。大会前にも不安の部分を取り除いてあげたかった。吉田もコンタクトや目のこと

◆北京五輪レスリング日本代表日程◆

日	種目	選手名(所属)
12	G60	笹本 睦(総合警備保障)
14	G84	松本 慎吾(一宮運輸)
	G96	加藤 賢三(自衛隊)
16	女48	伊調千春(総合警備保障)
	女55	吉田沙保里(総合警備保障)
17	女63	伊調 馨(総合警備保障)
	女72	伊調 京(シャパンバレー)
19	F55	松永 共広(総合警備保障)
	F60	湯元 健一(日体大)
20	F66	池松和彦(K-POWERS)

女王連覇への弱点 視力0.1が1.5へ

を気にすることなくレスリングができるようになった。視力の不安が消えたこととは何よりも大きかった。吉田は1週間前の練習中に古傷の右ひざ内側側副靭帯(じんたい)を再び負傷したが、4月末に痛めた時よりは軽傷で五輪本番へ慎重に調整を続ける。本番直前の8月14日には三井院長も北京入りし完全バックアップするという。「気持ちをしっかり持って緩めることなく調整したい」と吉田「眼力アップ」で金メダルをつかむ。【菅家大輔】